

「関西学院大学災害復興研究」投稿規程

本誌は、被災者支援・復興まちづくり・復興法制度・復興報道など災害復興に関する実証的・理論的研究、評論、実践報告、資料解説、講演記録などを掲載する。

- (1) 投稿原稿は、未公表のものに限る。
- (2) 投稿資格は、原則として本研究所研究員に限る。また、共著原稿は、少なくとも執筆者の一人が本研究所研究員であることが必要である。ただし、研究所研究員から推薦があり編集委員会が認めた日本災害復興学会員である場合、特別に執筆依頼する場合はその限りでない。
尚、本研究所の研究員でない本学教員・大学院生から投稿の申し出があった場合、編集委員会で個別に審査する。
- (3) 投稿原稿の採否決定、および修正は編集委員会の審査を経て行われる。ただし、編集委員会が認めるものについては、その限りではない。
- (4) 投稿原稿のうち査読付論文については、編集委員会が別途指名する2名の査読委員によって審査を行う。審査についての規定は以下の通りとする。
 - (ア) 編集委員会は、審査の結果に基づき、原稿について訂正ならびに短縮などを求めることができる。この場合、返送の日から2か月以内に再提出されない時には、投稿を取り消したものとして取り扱う。
 - (イ) 編集委員会が訂正を要求した場合、投稿者は指摘された箇所の他の箇所に変更を加えてはならない。ただし、編集委員会の承諾がある場合はこの限りでない。
- (5) 『関西学院大学災害復興研究』に掲載された文章については、関西学院大学災害復興制度研究所がすべて著作権を保有する。
- (6) 投稿原稿の構成は以下の通りとする。
 - (ア) 第1ページには、原稿の種別(論文(査読付)、論文(査読無)、研究ノート、報告、評論、解説、講演記録のうちいずれか)、和文・英文のタイトル、著者名、所属、連絡先を記す。
 - (イ) 第2ページから原稿本文となる。本文冒頭には和文要約(500文字程度)、和文キーワード(3~5語)を記す。
 - (ウ) 論文(査読付・無ともに)に限り、最終ページに英文のabstract(100~175ワード)、英文のキーワード(3~5語)を記す。論文以外は不要。
- (7) 投稿原稿はPCのWord・横書きを原則とし、A4用紙で横40字(全角換算)、縦30行とする。原稿量の目安は、次の通りとする。

論文(査読付・無)・研究ノート・報告	20,000字~30,000字
解説・評論	5,000字以内
- (8) 投稿原稿は、関西学院大学災害復興制度研究所 紀要担当(斉藤容子)まで電子メール(宛先のアドレス kiyou-entry@kwansei.ac.jp)にてWordファイルとPDFファイルを提出する。その際、氏名、所属先、所属先電話番号、投稿者の電話番号を明記する。

■ 執筆要領 ■

(1) 文字

- ① アルファベットならびに数字については半角文字を用いる。
- ② 幅のある数字表記については下記の例のとおりとする。

(例) 380-400 円 850 から 920 年

ただし、西暦の期間を表す場合で、間違いの恐れのあるもの以外は下二けたを単位として必要な部分を示す。

(例) 1920-30 年

(2) 句読点

- ① 句点「。」の位置は、以下の通りとする。
……であった(……ともいう)。……であった(「××文書」)。
- ② ()あるいは「 」の連結する文書では読点「、」を略す。

(例) 「東北大」「秋田大」「弘前大」

(3) 見出し

見出しの階層、表記を全体で統一する。見出しの番号は、章単位に通す。

(例) 見出し はじめに 1 〇〇〇 2 〇〇〇 3 〇〇〇 おわりに

中見出し 1.1 〇〇〇 1.2 〇〇〇 2.1 〇〇〇 2.2 〇〇〇

小見出し 2.1.1 〇〇〇 2.1.2 〇〇〇 2.2.1 〇〇〇 2.2.2 〇〇〇

(4) 表・図

- ① 表・図については本文とは別にファイルを作成し、本文中には図の挿入箇所を、3行を用いて以下のように示す。

.....
表1を挿入
.....

- ② 表・図はそれぞれ別個に通し番号を打つ
- ③ 表・図のファイルについては、本文と同じA4の設定とし、1ページに一つの表もしくは図を書く。それぞれの表と図のページには通し番号と表題も明記すること。

(5) 出典の表記

本文中で言及した論文・図書の出典名は、著者の氏名と刊行年を記し()でくる。

(例) (山中茂樹 2005)

ページ数も表記する場合は、下記の例に従う。

(例) (山中茂樹 2005: 26) (山中茂樹 2005: 45-49)

(6) 引用文

① 表記

本文活字と同じ活字にするが、前後1行ずつあけて本文より頭を2字下がりにする。引用文の末尾には、出典名とページ数を下記の例に従って挿入する。

(例)

□————本文————

〈1行あける〉

□——引用文——

〈1行あける〉

□————本文————

② 省略

引用文の途中の省略は(中略)とする。

(7) 注

注については、文末にまとめて記載する。本文への注の挿入については、下記の例の通りとする。

(例) 被災者支援の法整備が課題である¹⁾。

※注の表記には、Wordの「脚注の挿入」ではなく、「上付き文字」を用いる。

(8) 文献リスト

原稿の末尾に参考文献リストを記載する。表記方法は著者または編者(共著または共編著の場合は第一著者か第一編者)の姓名のイニシャルに基づきアルファベット順(A→Z)に記載する。和文献・外国語文献は区別しない。

〈邦文の文献〉

(ア) 単著の本: 著者名, 出版年, 『タイトル——サブタイトル』出版社名。

項目間の区切りは全角カンマ「,」、最後に全角ピリオド「.」を用いる。二重カギ括弧の後に全角カンマ「,」は不要。タイトルとサブタイトルは2倍ダッシュ「——」でつなぐ。出版者(社)については、岩波新書など刊行シリーズ名ではなく、岩波書店のように出版者(社)名を書く。

(例) 前田卓, 1971, 『巡礼の社会学』ミネルヴァ書房。

(イ) 編書収録の論文など: 著者名, 出版年, 「論文のタイトル」編者名編『本のタイトル』出版社名, 論文の初ページ-終ページ。

(例) 津久井進, 2006, 「復興基本法のデザイン——法制度案のラフ・スケッチ」関西学院大学災害復興制度研究所編『RON《論》被災からの再生』関西学院大学出版会, 39-63。

(ウ) 雑誌論文: 著者名, 出版年, 「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号): 論文の初ページ-終ページ。

ジ.

(例) 山中茂樹, 2006, 「災害復興基本法への道」『先端社会研究』(5): 287-324.

〈欧文の文献〉

(ア) 単著の本: 著者のラストネーム, ファーストネーム ミドルネーム, 出版年, タイトル(: サブタイトル), 出版都市名: 出版社名.

(例) Tierney, Kathleen, 2019, *Disasters : a sociological approach*, Cambridge: Polity.

(イ) 編書論文: 著者名, 出版年, “論文のタイトル,” 編者名 ed., 本のタイトル, 出版都市名: 出版社名, 論文の初ページ-終ページ.

(例) Hoffman, Susanna M., 1999, “The Worst of Times, The Best of Times: Toward a Model of Cultural Response to Disaster”, Anthony Oliver-Smith and Susanna Hoffman eds., *The Angry Earth: Disaster in Anthropological Perspective*, New York: Routledge, 134-155.

(ウ) 雑誌論文: 著者名, 出版年, “論文のタイトル,” 雑誌名, 巻(号): 論文の初ページ-終ページ.

(例) Oliver-Smith, Anthony, 1996, “Anthropological Research on Hazards and Disasters”, *Annual Review of Anthropology*, 25: 303-328.

〈その他〉

新聞記事: 「見出し」 ○○新聞 発行年月日.

インターネット上の情報: 著者名または揭示機関名, 公表年または最新の更新年, 「当該情報のタイトル」(URL, アクセス年月日).

(例) 総務省消防庁, 2006, 「平成7年1月17日 阪神・淡路大震災について(確定報)」(<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/assets/post1.pdf>, 2019年6月25日にアクセス).

上記以外の種類の文献に関する記載方法については、編集委員会にて別途定める。